

令和6年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	琵琶湖環境部
日 時	令和6年(2024年)4月23日(火) 15:15~16:00
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、江島副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 部長、次長、管理監(クリーンセンター滋賀担当、最終処分場特別対策室長事務取扱)、技監(下水道担当)、環境政策課長、琵琶湖保全再生課長、循環社会推進課長、下水道課長、森林政策課長、びわ湖材流通推進課長、森林保全課長、自然環境保全課長

発言者	発言概要
総務部長 びわ湖材流通推進課長 知事公室長	木育拠点施設には期待している。どのように活用していくのか。 今までの取組でもあるが、指導者の育成をしており、そういった方々や県内で活動されている方々の活躍の場として利用いただければ。 伊吹山は米原市長からもよろしくといわれた。先週綿向山に登ったが、山頂のクマザサが全滅していた。シカによる植生の衰退は県内に広がっていると思うが、シカ捕獲方法の開発の可能性はあるか。
自然環境保全課長	県で新たな捕獲手法の開発から取り組むことはなかなか難しい。市町や関係団体とも連携して、優先順位を決めて捕獲を進めていく。
総合企画部長 循環社会推進課長	循環社会推進課の動静脈産業連携セミナーとはどういうものか。また、自然環境保全課の捕獲情報収集システムへの移行とはどういうものか。 動静脈産業連携セミナーについて、動脈とは製造業など生産される部分。静脈とは廃棄物としてだされてから処分までの産業。これまで、動脈側と静脈側が一同に介したことはなかった。静脈側が動脈側の情報を得ながら、どう循環させていけるのかなど、お互いに情報交換してもらい、新たな循環の仕組みを作れば。
自然環境保全課長	捕獲情報収集システムへの移行については、端的に言えば紙で処理していたものの電子化。現在は、各狩猟免許所持者の免許情報や狩猟者登録情報の管理をすべて紙で、各森林整備事務所において管理しており、引越されることが多いと森林整備事務所間や他府県との間で紙のやり取りが発生している。国で確立しているシステムに移行させ、一元管理することで、県内・県外への引越し等の際も取り扱いがスピーディーにできるようになる。
江島副知事	琵琶湖環境部は広い範囲を扱っている。 MLGsを広報していこう。 一昨日琵琶湖博物館のクラウドファンディングの内覧会にいった。2か月あまりで1100万円を超える、また企業からも1200万円を超える寄付を頂いた。さらにまたオオナマズの関係でクラウドファンディングをやろうとしている。それだけファンがおられるということが印象的。志を持っていただいている方が多いと感じた。ぜひこのクラウドファンディングについて、銘板は作られるが、見えるように企画を工夫してほしい。 世界湖沼デー。びわ湖の日のバージョンアップ。世界湖沼デーが制定されたら、いままでやってきた我々の取組がさらに進化するようにぜひ考えてもらいたい。びわ湖の日、7月1日の一斉清掃をずっと続けてきたが、制定を機に、これに加えてもっとすごいことが起こっているように考えてもらいたい。びわ活も含めて。 造林公社。10年以上前に免責の債務引き受けが終わったけれども、その後単価も数量も下がり、再燃している。これから考えていくに際して、どういう形で決着するかは分からないが、前回の造林公社のお金をつぎ込んで何か変わったか考えたが、そんなに我々の生活に変化がなかった気がする。レガシーという変だが、この問題解決を機に、木に対する考え方が変わったなど、何か新しいレガシーを作ってほしい。その一つがバイオマス発電への活用。土木でもバイオ炭、バイオチップを利用すると提案いただいた。今回の件を機に、森林行政がかわったと見るとよい。それがバイオマスかどうかは分からないが、産業が変わった。川上、川中、川下が変わったという成果を見せてほしい。税金をつぎ込むので、これだけ変わったと見えるものが欲しい。
環境政策課長 部長	琵琶湖博物館はあるのが当然と思っていたが、今回の事態を受けて改めて価値を再認識した。前館長も、ファンの方々とより近くなったと感想をおっしゃっていた。私もそう思う。寄付をいただいた方々の思いは、琵琶湖博物館の魅力向上。早ければ今年度中に、魅力向上につながる取組をしたい。予算枠については、寄付のインセンティブを頂けるといことなで活用したい。
森林政策課長	琵琶湖博物館には明確な広報戦略がなかった。今後どのように琵琶湖博物館を打ち出していき、クラウドファンディングも含めて考えていきたい。 造林公社であるが、これまでに2万haの滋賀県の森林を造成してきた。債権放棄など色々あったが、山、森林は2万haあるので、例えば山があることにより琵琶湖の水位低下にも役立っていると言えるよう、科学的なエビデンスを示せればよいと考えている。公益的機能を見える化して、県民の皆さんに森林の価値を見せていければ。木材産業の面でも現在1万㎡の木材を生産しており、川上から川下において一定の貢献をしているところもセットで見せていきたい。
江島副知事	公益的機能は大事であるが、それは前回も言っていたこと。またお金をいれるとするならば、違うものが言えればよいのだが。総合企画部の時にも言ったが、バイオマス発電やカーボンクレジットなどがその一例。バイオマス発電は難しいとの回答であったが、滋賀県が先進県と言えるものが何かあれば。

部長	<p>バイオマスについては、兵庫県の造林公社もバイオマス発電に取り組んでいたがうまくいかなかった。なぜダメだったのか、滋賀県に可能性がないのかは整理する必要があると思う。材の供給を安定的にできるのがFIT認定するときの非常に大きな条件なので、どうすればバイオマス発電がうまくいくのか考えていく必要がある。県民の皆さんにプラスの方向に働くのかも含めて整理したい。</p>
次長	<p>世界湖沼デーであるが、昨日ILECに行き、副理事長と話した。10月頃を目途に記念になるようなもの、将来につながるものを一緒に考えていこうと話してきたところ。</p>
江島副知事	<p>秋ならヨシ刈りもよいのでは。</p>
部長	<p>国内の他の指定湖沼などと連携して、どういう形で全国的に展開していくのか、今年度中に仕掛けをしていければ。</p>
琵琶湖保全再生課長	<p>先日環境省に行ってきたが、環境省としても湖沼法に規定する湖としか付き合いがなく、それ以外の湖沼とは付き合いがないと言っていたので、例えば世界湖沼デーをきっかけに新たな連携をしていく可能性があると考えている。また、世界湖沼デーの趣旨自体が世界の人々に湖沼の重要性を認識していただくというところにある中、インドネシア政府がサポートしてくれているので、そのような海外との関わりについても可能性があると思う。</p>
技監（下水道担当）	<p>公営企業法の適用について、下水道審議会ですっかり議論いただきたいという中で、メリットデメリット、例えば災害に対応するところであるとか、経営に関することなどをしっかり議論いただいて、今年度末には方向性を示したいと思っている。</p>
知事	<p>世界湖沼デーについては制定されてどうするのか、琵琶湖環境部だけではなく考えを持っておいの方が多い。制定されて終わりではなく、制定されてどうなるのか。もし8月27日になれば、7月1日から8月27日までイベントの期間を持つとか。広島サミットの次のサミットを滋賀県に誘致してどうか。 このご時世でハンドブックの改訂はどうかと思った。まだ紙ベースのハンドブックかという印象ももった。</p>
環境政策課長	<p>琵琶湖ハンドブックについては、これまで無償だったものを有償にしたいと思う。できれば書籍化にも挑戦したい。ホームページにもPDFをそのまま掲載するだけではなく、もう少しインタラクティブにしたいと考えている。</p>
知事	<p>ラーケーションの取組に絡めてやってほしい。</p>
部長	<p>世界に通じる価値の発信の勉強会がいいと思うが、これは部内だけか。</p>
知事	<p>今は部内を想定している。メンバー構成は一度考えたい。</p>
知事	<p>山も含めて考えてはどうかと思う。 しがプラチャレンジはいいと思う。一斉清掃もよいと思う。関西広域連合という話があったので、ぜひこども、若者、学生、あと万博も絡めてもらえれば。 動静脈産業セミナーは産廃税のことも意識してやってもらえれば。 下水道としがプラチャレンジとの連携。矢橋帰帆島の魅力の活性化も含めて。何か矢橋帰帆島という下水道の枠内でしか考えられないとなるので、うまく広げるために、しがプラと絡めてやるとどういうことになるか。循環を見せる、どう楽しむ方ができるか、そういった発想で考えてみたらどうかと思う。 最終処分場の安定化プロセスも大事。先輩方が本当に苦勞してきてくれた。ぜひアーカイブはみんなで作るように。</p>
管理監（グリーンセンター滋賀担当、最終処分場特別対策室長事務取扱）	<p>地元自治会のほか栗東市も一緒に協議会を作っており、そこでやっていく。</p>
知事	<p>造林公社はぜひスケジュールを考えよう。特に今年度が勝負。もたもたせずに今年度行けるところまで行くから。ちょっとねじを巻いて、今年度行けるところまでいく。 木育拠点ははいよいよ年度末ということなので、楽しみの醸成を含めて、企業との連携も含めてしっかり作っていきたい。 高時川濁水対策は、問題をどうするかということだけではなく、水源地域の活性化含め、何かエコツアー的なものを、北部振興的なものを、交付金の活用を含め、前向きな取り組みとして、作っていただけたいと思う。用地も随分取得したので。 伊吹山の保全については、米原市だけでなく県もしっかりと出て行って取り組むとともに、他の山地でのシカの食害対策にもつなげていくという視点をもってやれたらと思う。 生物多様性しが戦略に基づく取組については、企業の取組を県でも発信するなど、企業側のメリットを作るという視点があるとよい。例えば、来年の万博のしがのパビリオンで、マザーレイクゴールズとともにこういったものを発信するなど。</p>
部長	<p>ありがとうございます。前向きに取り組んでいく必要があると思う。いつも「琵琶湖族」と言われるが、様々な主体としっかりと連携して成果を一つ一つ出していきたい。</p>